

## 1. 製品及び会社情報

製品名: Rislone® Oil Seal Engine Oil Burning & Leak Repair

(リスローン バルブシール オイルコンサンクション リペア)

品番: RP-44223

種類: 石油製品

用途: 自動車用オイル添加剤

製造者: Rislone P.O. Box 187 Holly, MI 48442 USA Phone: (810) 603-1321

輸入総発売元: 株式会社リークラボ・ジャパン (旧社名: 株式会社眞洋商会) 担当: 物部 智人

大阪市港区市岡元町3-3-21 TEL. 06-6582-5497 FAX. 06-6582-5495

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

物理化学的危険性:

火薬類	分類できない
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分4 第四類 第三石油類
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類できない
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類できない
酸化性液体	分類できない
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類できない
金属腐食性物質	分類できない

人健康有害性:

急性毒性 (経口)	区分外
急性毒性 (経皮)	区分外
急性毒性 (吸入: 気体)	分類対象外
急性毒性 (吸入: 蒸気)	分類できない
急性毒性 (吸入: 粉じん)	分類対象外
急性毒性 (吸入: ミスト)	区分外
皮膚腐食性・刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2 A

呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分1
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	区分1A
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分2(肺)
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	区分1(肺、皮膚)
呼吸性呼吸器有害性	区分外

**環境有害性：**

水生環境急性有害性	分類できない
水生環境慢性有害性	区分3

**絵表示又はシンボル：** 指定なし

**注意喚起語：** なし

**危険有害性情報：**

可燃性液体  
皮膚刺激  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
強い眼刺激  
長期的影響により水生生物に有害  
眠気又はめまいのおそれ(気道刺激性、麻酔作用)  
長期又は反復ばく露による肺、皮膚の障害  
飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ  
発がんのおそれ

**注意書き：**

**【安全対策】**

使用前に取り扱い説明書を入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取り扱い後は手をよく洗うこと。  
環境への放出を避けること。

**【応急措置】**

飲み込んだ場合、無理して吐かせないこと。  
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。  
コンタクトレンズを用意に外せる場合には外して洗うこと。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当を受けること。

飲み込んだ場合は直ちに医師の診断、手当を受けること。口をすすぐこと。

眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当を受けること。

皮膚刺激があれば医師の診断、手当を受けること。

**【保管】**

施錠して保管すること。

**【廃棄】**

内容物や容器は、各自治体の許可を受けた専門の処理業者に業務委託すること。

### 3. 組成、成分情報

---

単一製品・混合物の区別：混合物

化学式又は構造式：下表の物質と報告義務のない添加物の混合物

成分/化学名	重量%	CAS Number
溶剤脱ろう重質パラフィン	50-100	64742-65-0 ※
水素処理重質ナフテン	<20	25038-36-2 ※
水素処理重質パラフィン	<10	64742-54-7 ※
チオフェン テトラヒドロ-3- decyloxy-1,1 ダイキチド	<5	18760-44-6
ドデシルフェノール 一分岐型	<0.1	121158-58-5 (微量成分)

**-追加情報：**

※分類発がん性物質は、IP 346 「Determination of polycyclic aromatics in unused lubricating base oils and asphaltene free petroleum fractions - Dimethyl sulphoxide extraction refractive index method」 (Institute of Petroleum, London) による測定により、DMSO 抽出として含まれている分量が3% 未満であることを示すことができる場合は適用されません。 当該製品は、これらの要件を満たしています。

表示されている成分の正確な割合は機密とされています。

### 4. 応急措置

---

**吸入した場合：**新鮮な空気を摂取できる場所へ移動させる。

毛布等で保温し安静に保ちすぐに医師の診断を受ける。 呼吸しない場合には人口呼吸すること。

**目に入った場合：**最低15分間水で目を洗浄。もし炎症がひどくなるようであれば医師の診断を受ける。

**皮膚へ付着した場合：**付着部を石鹸と水で洗浄。もし炎症がひどくなるようであれば医師の診断を受ける。

**飲み込んだ場合：**水を飲ませること。すぐに医師を呼ぶこと。無理に吐かせないこと。

**既存の症状の深刻化：**当該製品への接触が、病状を悪化させる、深刻化させることは想定されていない。

**最も重大な症状：**各症状に合わせて治療を受けること。

### 5. 火災時の措置

---

引火点： 223℃

自然発火点： 自然発火性なし

**燃焼による有害発生物や残留物：**煙、すす、有害なガス（例：一酸化炭素、二酸化炭素）、窒素酸化物。

**火災時の特定危険有害性：**燃焼や分解の時、刺激性/毒性の蒸気を発生する可能性有り。

**消火剤：** 小火災には乾燥化学品、二酸化炭素、水の霧やスプレー、ハロゲン、アルコール泡を使用のこと。  
大火災には水のスプレー、アルコール泡を使用し、燃焼物をしっかり浸すこと。  
容器を水で冷却すること。

**使用してはならない消火剤：** 棒状の高圧ジェット水流、過酸化水素類、減熱消炎剤。

**消火を行なう者の保護：** 消火作業の際には防護・防火服、空気呼吸器、循環式酸素呼吸器等を着用のこと。  
容器や現場の冷却のため水を使用してもよい。

## **6.漏出時の措置**

---

**人体に対する注意事項、保護服及び緊急時措置：** 眼、皮膚、衣服への接触や吸入を避ける。

飲食や喫煙前には、よく手や顔を洗うこと。

作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用する。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

風上に留まる。低地から離れる。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

密閉された場所に立入る前に換気する。

**回収、中和：** 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。

乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。

大量の場合、盛り土で囲い流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

**環境に対する注意事項：** 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

**廃棄：** 各自治体や廃棄物処理法等に従って焼却、埋め立てや廃棄をすること。

## **7.取扱い及び保管上の注意**

---

**取扱い：** 常温、換気の良い場所で取り扱う。

目に入ると軽度の炎症を引き起こす可能性あり。保護ゴーグル使用等、目に入らないようにする。

皮膚に長時間触れると炎症を引き起こす可能性あり。手袋を使用するなど皮膚に触れないようにする。

火災または高温体との接近を避けるとともにみだりに蒸気を発生させないようにし、吸引に注意する。

当該製品の吸収、掃除に使用した布類を持ち出さないこと。

取扱いの後十分に洗浄すること。一般的な化合物の取り扱い方法に則ること。

**保管：** 涼しく、乾燥した換気の十分できる場所に施錠して保管し、熱・点火源及び直射日光を避けること。

種類の異なる危険物は同一の貯蔵所において貯蔵しない事。

常に容器のフタをきつく閉めること。

高温多湿の場所に保管することは避ける。

どんな目的であっても容器を再利用しないこと。

**注意事項：** 高温状態の蒸気やミストが空気と混合すると、兆候もなく突然燃焼することがある。

## **8.ばく露防止及び保護措置**

---

**管理濃度：** 設定されていない。

**許容濃度：** 設定されていない。

**設備対策：** 適切な排気装置により空気中の濃度を限界値以下に抑える。

チリやミスト、蒸気が放出された場合に備えて通常排気装置を設ける。

**皮膚の保護**：適切な保護服や保護手袋を着用すること。

**目の保護**：保護ゴーグルを着用すること。

**手の保護**：作業時には必ず保護手袋を着用すること。

**呼吸器官の保護**：蒸気/ミストの吸引を避けること。必要に応じてマスクを着用する。

**衛生対策**：特に、飲食、喫煙、トイレ設備を使用する前には、手をよく洗うこと。

## 9.物理的及び化学的特性

---

**外観**：液体

**色**：琥珀色

**臭気**：フルーツ臭

**臭気限界**：測定データ無し

**PH**：測定データ無し

**融点**：測定データ無し

**氷点**：測定データ無し

**沸点**：測定データ無し

**沸騰範囲**：測定データ無し

**引火点**：223℃

**蒸発速度**：測定データ無し

**酸化性**：測定データ無し

**燃焼性（固体・ガス）**：測定データ無し

**爆発上限/下限界濃度**：測定データ無し

**蒸気圧**：測定データ無し

**蒸気密度（空気=1）**：測定データ無し

**比重**：0.88

**水への溶解度**：ほとんど混和しない

**疎水性 オクタノール/水分係数**：測定データ無し

**自然発火温度**：自然発火性なし

**粘度（40℃）**：155,46 mm<sup>2</sup>/s

**粘度（100℃）**：測定データ無し

**揮発率（%）**：0

**蒸発速度（酢酸ブチル=1）**：<0.01

**揮発性有機成分**：なし

**注意**：ここで記載された物理的データは一般的な値であり、仕様として解釈されるべきではない。

## 10.安定性及び反応性

---

**反応性**：常温で反応性なし。

**安定性**：通常の取扱い条件下で安定。300℃以上の環境下で徐々に分解。

**発火性(自然発火性・水との反応性)**：自然発火性なし、水との反応性なし。

**避けるべき条件**：高温の発火物との接触。分解点を超える加熱で有毒性のガスが発生する可能性あり。

**危険な分解生成物**：燃焼することで一酸化炭素や二酸化炭素、炭化水素を生成する。

**危険な重合作用**：発生しない。

## 11.有害性情報

---

**急性毒性**：経口、経皮、吸入：区分外

**眼に対する重篤な損傷・刺激性**：区分2 A 強い眼刺激

**皮膚腐食性/刺激性**：区分2 皮膚刺激

**呼吸器感作性又は皮膚感作性**：区分1 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

**生殖細胞変異原性**：区分外

**発ガン性**：区分1 A 発ガンのおそれ

**生殖毒性**：有用な情報無し

**特定標的臓器・全身毒性—単回暴露**：区分2（肺）

—**反復暴露**：区分1（肺、皮膚） 長期又は反復ばく露による肺、皮膚の障害

吸引性呼吸器有害性：区分外

想定される暴露経路：目、皮膚、気道

症状：目：刺激の可能性 皮膚：接触により刺激の可能性

呼吸：蒸気により気道に刺激の可能性

食物摂取時：消化器官に不快感の可能性

## 12.環境影響情報

---

水生生物毒性：長期的影響により水生生物に有害

生態毒性：有用な情報無し

残留性・分解性：有用な情報無し

生態蓄積性：有用な情報無し

土壌中の移動度：有用な情報無し

下水道中の運動：有用な情報無し

PBT・vPvB：該当しない

他の副作用：有用な情報無し

## 13.廃棄上の注意

---

廃棄：回収、リサイクルができない場合、廃棄は各自治体の規制、廃棄物処理法等に従うこと。

下水処分は行わないこと。

特別な指示：指導が必要であるかどうか必ず適切な政府環境機関に連絡・確認すること。

容器の洗浄が完了するまではラベルを剥がさないこと。

容器は再利用、もしくは、自治体の指導に従い埋め立てまたは焼却処分すること。

洗浄剤による容器洗浄を行うこと。

## 14.輸送上の注意

---

国連分類及び国連番号：該当しない

運搬に際しては、容器に漏れがないことを確認し、落下・損傷しないように注意する。

## 15.適用法令

---

労働安全衛生法： 通知対象成分： 鉱油(水素処理重質パラフィン油)

毒物及び劇物取締法： 非該当

消防法： 第四類 第三石油類 危険等級III

化学物質管理促進法(PRTR法)： 非該当

化学物質審査規制法(化審法)： 既存化学物質

海洋汚染防止法： 規制対象物質

下水道法： 排出規制 (5mg/L 許容濃度)

水質汚濁防止法： 排出規制 (5mg/L 許容濃度)

廃棄物処理法： 産業廃棄物

## 16.その他の情報

---

**引用文献等:**

- (1) GHS 対応ラベルおよびSDS の作成マニュアル (厚生労働省医薬食品局)
- (2) 化学物質総合情報提供システム (製品評価技術基盤機構)
- (3) 日本工業標準調査会 JIS Z 7253

**記載内容:**ここに記載されている情報は知りうる限りの情報に基づいて作成しておりますが万全ではありません。またいずれの情報もこれを保証するものではありません。危険について述べておりますが、危険の存在可能性のみを記載しているものであり補償の対象ではなく、安全の保証をするものではありません。注意事項は通常の手扱いを前提にしたものですので、化学品の適合性の最終決定責任者は使用者自らであることを理解し、用途に適した安全対策を講じた上でご利用願います。

---

— SDS の終了 —